

日産のサステナビリティ

サステナビリティ戦略

日産の考えるサステナビリティ

日産は、コーポレートパーパス「人々の生活を豊かに。イノベーションをドライブし続ける」の実現に向け信頼される企業として、独自性に溢れ、革新的なクルマやサービスを創造し、優れた価値をすべてのステークホルダーに提供します。グローバルなあらゆる事業活動を通じて企業として成長し、経済的に貢献すると同時に、世界をリードする自動車メーカーとして、社会が直面する諸課題の解決に貢献することは日産の使命です。日産は、お客さま、株主、従業員、地域社会などすべてのステークホルダーから必要とされる、真にサステナブルな企業となることを目指し、よりクリーンで、安全で、インクルーシブな、誰もが共生できる世界の実現を推進していきます。

社会の課題分析とマテリアリティの特定

日産は、ステークホルダーの皆さまの関心、ならびに技術革新などの最新動向を踏まえながら、サステナビリティ戦略を策定し、活動を推進しています。戦略策定にあたり、日産の優先課題を明確に示すため、リスクや機会分析を踏まえた会社全体として取り組むべきマテリアリティ(重要課題)を特定しました。

特定にあたりダブルマテリアリティの考え方を取り入れ、これまでも投資家からの関心が高かった「社会・環境が日産へ与えるインパクト(財務的影響)」の視点に「日産が社会・環境へ与える影響や価値」の新しい見方を加えた2側面により、企業活動とサステナビリティを相互に検討し、日産のつくり出す価値と取り組む優先順位を提示しています。

このように、日産としての方向性をより詳細にステークホルダーにお伝えすることで、自動車セクターのみならず、さまざまな協働機会の拡大や信頼関係の向上を図り、さらなる取り組み推進につなげたいと考えています。

マテリアリティ特定のプロセス

STEP1.社会・環境課題の明確化

定期市場動向分析、ステークホルダー・投資家の皆さまとの対話より得られた社会からの期待値、グローバルスタンダード、国連気候変動枠組条約締約国会議(COP)、SDGs、世界経済フォーラム(WEF)発行のリスクレポートなどからグローバルなアジェンダを明確化。

STEP2.自動車セクターおよび日産の重要課題特定

コーポレート長期ビジョンにより実現する世界と、そこで果たすべき自動車セクターの役割という視点からリスクと機会を分析することで、日産にとっての課題を特定。

STEP3.マテリアリティの優先度整理

縦軸・横軸の2側面からリスクと機会での優先度の整理を実施し、日産のつくりだす価値と今後さらに強化して取り組むべき課題をマトリックス型により整理。有識者レビューを行い、フィードバックを反映。

STEP4.執行役員、取締役との合意

特定したマテリアリティは、各項目の設定理由や背景を含め執行役員、取締役へ報告し、合意を得て決定。

日産のマテリアリティマトリックス

21項目のマテリアリティを特定し、その中でも日産が社会・環境へ与える価値・インパクトが最も大きい縦軸最上段の項目、および社会・環境から日産へ与えるインパクトが最も大きい横軸最右列の項目を最重要12項目としています。

特定された各項目は、事業活動へ織り込んでいくことで協働機会を拡大し、より一層充実した活動推進につなげ、コーポレートパーパスを具現化していきます。



| | | | | | | |
|----|---------------------|----|-----|-------|------|-----|
| 目次 | Corporate direction | 環境 | 社会性 | ガバナンス | データ集 | 006 |
|----|---------------------|----|-----|-------|------|-----|

CSOメッセージ 日産のサステナビリティ

重要と考える理由

| マテリアリティ | 重要と考える理由 | 日産の取り組み | E | S | G |
|--------------------|---|--|---|---|---|
| ガバナンス、法規制、コンプライアンス | コーポレートパーパスや行動規範に基づき、透明性のあるフレームワークを用いた効果的なガバナンスを通じて最大限の誠実性を持って事業運営を行う。また法規制を遵守し人々と社会に対し敬意と誠実さを持ち行動する。 | <ul style="list-style-type: none"> コーポレートガバナンス(P121) コンプライアンス(P134) | | | ✓ |
| 包括的なモビリティソリューション | 自動運転などの新しいモビリティ技術とサービスをより多くの人に提供し、誰もが安心して自由に移動できるインクルーシブな社会を実現する。 | <ul style="list-style-type: none"> 安全(P071) | | ✓ | |
| 人権 | すべての従業員が個人の尊厳と人権を最大限に尊重する組織を醸成する。また国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」を参照した社内倫理基準に基づき行動する。 | <ul style="list-style-type: none"> 人権(P065) 従業員の人権(P093) | | ✓ | |
| クルマの電動化 | 電動車ラインナップの拡充、バッテリーと車両の技術革新、クルマの多様な使い方を可能にするエコシステム構築により、カーボンニュートラル実現を目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> バリューチェーンでの活動実績-商品(P035) | ✓ | | |
| 再生可能エネルギー | 国や自治体との協働や、さまざまな業界団体との連携を通して、CO ₂ 削減に向けた再生可能エネルギーや代替燃料の使用を推進する。EVバッテリーの循環利用などの4R*の取り組みやV2Xの活用を通じ、エネルギーマネジメントで社会課題の解決を継続する。 *4R：バッテリーの再利用、再製品化、再販売、リサイクル | <ul style="list-style-type: none"> バリューチェーンでの活動実績-商品(P035)、企業活動(P044)、関連パートナーとの連携(P059) | ✓ | | |
| クルマの安全性 | 先進の運転支援技術をより多くのお客さまに提供することで、日産車のかかわる交通事故の死者数を実質ゼロにする「ゼロ・フェイタリティ」実現を目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> 安全(P071) | | ✓ | |
| クリーンな排出ガス | 「大気並みにクリーンな排出ガス」を目指して、製品や拠点から排出されるのは、よりクリーンな排出ガス(NOx、PMなど含む)となるよう努める。 | <ul style="list-style-type: none"> バリューチェーンでの活動実績-商品(P035)、企業活動(P044) | ✓ | | |
| プライバシー&データ保護 | データ保護およびプライバシー権の保護に取り組み、適切なセキュリティ対策を講じてステークホルダーの個人情報を守り、新しい技術とセキュリティリスクを考慮したデータの安全な取り扱いに責任を持つ。 | <ul style="list-style-type: none"> プライバシー&データ保護(P133) | | | ✓ |
| コミュニティの発展 | 災害時の復旧支援や人道支援に加え、「ブルー・スイッチ」のような社会変革への取り組みを通じてコミュニティの発展に貢献する。 | <ul style="list-style-type: none"> バリューチェーンでの活動実績-商品(P035) 地域社会(P088) | ✓ | ✓ | |
| 製品品質 | デザイン、性能、化学物質管理および車室内空気質向上などの製品品質向上により、より安心・快適で使いやすいモビリティを提供する。 | <ul style="list-style-type: none"> バリューチェーンでの活動実績-商品(P035) 品質(P074) | ✓ | ✓ | |
| サプライチェーンマネジメント | サプライヤーCSRガイドラインに基づき人権・環境に配慮したサプライチェーンからの責任ある調達で、原材料の安定供給と地域共存を実現する。 | <ul style="list-style-type: none"> バリューチェーンでの活動実績-関連パートナーとの連携(P059) 責任ある調達(P083) | ✓ | ✓ | |
| サステナブル資源マネジメント | 資源価格変動や調達リスクを回避し、資源依存を最小化するため、リペア/リユース/リビルト/リサイクルなどのサーキュラーエコノミーの効果的な循環利用による、最適なクルマ作りの仕組みを構築する。 | <ul style="list-style-type: none"> バリューチェーンでの活動実績-企業活動(P044) | ✓ | | |

E:環境、S:社会性、G:ガバナンス

2030年に向けたサステナビリティの取り組み

日産は、よりクリーンで、安全で、インクルーシブな、誰もが共生できる世界の実現をめざす長期ビジョン「Nissan Ambition 2030」を2021年に発表しました。ワクワクするクルマや技術を通じて、お客さまの移動の可能性を広げ、さまざまなパートナーシップを活用しながら、社会の可能性を広げるスマートなエコシステムの構築を進めています。2023年度には「ニッサン・グリーンプログラム2030(NGP2030)」と「ニッサン・ソーシャルプログラム2030(NSP2030)」を策定しました。「NGP2030」および「NSP2030」は、「Nissan Ambition 2030」の実現に不可欠であり、経営計画「The Arc」にとっても重要な基盤です。

<NGP2030>

日産は、環境理念「人とクルマと自然の共生」の実現のため、2002年に中期環境行動計画「NGP2005」を策定し、20年以上にわたり環境への取り組みを進化させてきました。第5世代のプログラムとなる「NGP2030」は、技術やビジネスの進化によって環境負荷を低減し、社会と自然にポジティブな影響を与え、人々の生活が、持続可能で自然と調和できる社会創りを目指しています。

<NSP2030>

「NSP2030」は、2030年に向けて社会性の取り組みを包括的に推進するために策定された初のプログラムで、日産が「人」を中心とした企業になることを目指しています。従業員、サプライヤー、パートナー、社会と共に成長し、さまざまな「人」へ価値を提供していきます。

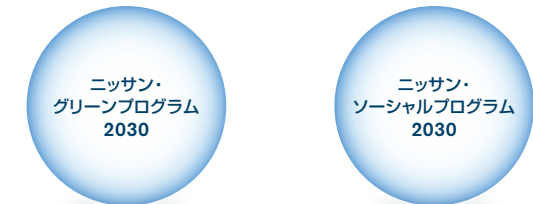
「NGP2030」および「NSP2030」では、活動領域ごとに2030年の目標、アクションプランなどを設定し、取り組みを推進します。これらの取り組みを通じて、持続可能なビジネスの実現を目指し、より良い世界を次世代につなぐことへ貢献していきます。

コーポレートパーパス

人々の生活を豊かに。イノベーションをドライブし続ける
よりクリーンで、安全、よりインクルーシブな世界へ



THE ARC
Nissan Business Plan



CSOメッセージ 日産のサステナビリティ





























・「NGP2030」

私たちは環境理念「人とクルマと自然の共生」の実現のため、2002年より中期環境行動計画NGPを策定してきました。第5世代となる「NGP2030」では、人々の生活が、持続可能で自然と調和できる社会創りを目指しています。具体的には1.5℃シナリオの加速やサーキュラーエコノミーへの移行など、環境負荷を低減し、機会を最大化する環境

の取り組み導入に注力します。「気候変動」「資源依存」「大気品質と水」を重要課題として設定し、さらに活動の基盤となるトレーサビリティの強化に取り組みます。気候変動においては、日産は2050年までにクルマのライフサイクル全体におけるカーボンニュートラルを実現する目標を設定しています。2030年代早期より、主要市場で

投入する新型車をすべて電動化車両とすることを目指しており、「NGP2030」の促進が、カーボンニュートラルの達成につながると考えています。また「Just transition(公正な移行)」の考えを実践し、カーボンニュートラルの実現を目指しています。

「NGP2030」一覧表

| ピラー | | 主な2030年目標 | 関連するマテリアリティ | 主に貢献するSDGs |
|--------|--------|--|---|---|
| 気候変動 | 材料資源 | CO ₂ 排出の削減 ・ライフサイクル(t-CO ₂ /台数): -30% (グローバル) (2018年度比) ・クルマ(g-CO ₂ /km): -32.5% (グローバル) (2018年度比), -50% (4地域: 日本、米国、欧州、中国) ・生産(t-CO ₂ /台数): -52% (グローバル) (2018年度比) | <ul style="list-style-type: none"> ・クルマの電動化 ・再生可能エネルギー ・サプライチェーンマネジメント ・コミュニティの発展 ・サステナブル資源マネジメント ・エネルギー効率の追求 ・ライフサイクルマネジメント ・物理的ハザードへの対応 ・生態系サービスと生物多様性 |      |
| | クルマの活用 | ・サステナブルマテリアルの拡大(重量ベース): 40% (日本、米国、欧州、中国) ・エネルギーマネジメント機能の拡大: EVへの搭載率: 100% (日本、米国、欧州) | <ul style="list-style-type: none"> ・クルマの電動化 ・再生可能エネルギー ・サステナブル資源マネジメント ・サプライチェーンマネジメント ・コミュニティの発展 ・生態系サービスと生物多様性 |      |
| 大気品質と水 | 水 | ・生産拠点での水リスク管理の強化: ハイリスクサイト数のゼロ化 | <ul style="list-style-type: none"> ・製品品質 ・サプライチェーンマネジメント ・サステナブル資源マネジメント ・クリーンな排出ガス ・生態系サービスと生物多様性 ・水・大気・土壌の保全 ・物理的ハザードへの対応 |       |
| | 大気品質 | ・クルマからのエミッション削減(テールパイプ以外も含む): 技術の開発と適用 ・生産拠点でのVOC管理: 活動の継続(塗装) ・車室内空気の管理: 車室内VOCの日産基準の遵守 | <ul style="list-style-type: none"> ・製品品質 ・サプライチェーンマネジメント ・サステナブル資源マネジメント ・クリーンな排出ガス ・生態系サービスと生物多様性 ・水・大気・土壌の保全 ・物理的ハザードへの対応 |       |
| 基盤 | | <ul style="list-style-type: none"> ・責任ある調達の実施: サプライチェーンのリスクマネジメントの実施 ・バリューチェーン情報の統合管理および説明責任の確保(トレーサビリティ): 企業活動/部品製造からのカーボンフットプリントなどの情報管理システムの構築/運用、サプライチェーン情報の信頼性向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・ガバナンス、法規制、コンプライアンス ・サプライチェーンマネジメント ・ステークホルダーとのエンゲージメント |       |

CSOメッセージ **日産のサステナビリティ**

・「NSP2030」




日産は社会性の取り組みを推進することにより、「人」を中心とした企業になることを目指し、従業員をはじめ社会におけるさまざまな「人」へ価値を提供していきます。企業としての責任を果たすとともに、日産らしさを追求し社会とともに成長していくことで、企業価値の向上と社会価値の

創造を目指します。人財はビジネスとそのプロセス全体を通じて最も重要な要素だと考えています。「NSP2030」では、人事4領域を含めた9領域を重点領域と設定し、2030年の目標を定義しました。

また、従業員、パートナー、サプライヤー、お客さま、地域社

会などさまざまなステークホルダーを含めた人権の取り組みを引き続き推進、強化していきます。

「NSP2030」一覧表

| 領域 | | 2030年目標 | 関連するマテリアリティ | 主に貢献するSDGs |
|----|------------------------|--|--|---|
| 人権 | 安全 | 運転支援技術やコネクテッドカーシステムなどの新たなテクノロジーに投資することによって、より安全で、効率的で、そしてより一層パーソナライズされたモビリティソリューションを創造する | ・クルマの安全性 ・包括的なモビリティソリューション |   |
| | 品質 | トップレベル品質*1、品質不具合ゼロ、コンプライアンス問題ゼロを達成する | ・製品品質 |     |
| | 知的財産 | 他社とともに知的財産活動を推進し、イノベーションを促進することにより、社会課題の解決に貢献する(IPエコシステム) | ・クルマの安全性 ・包括的なモビリティソリューション ・製品品質 |       |
| | 責任ある調達 | 「人権侵害ゼロ」を目指して、サプライチェーンにおける人権デューデリジェンスの仕組みを構築する | サプライチェーンマネジメント |        |
| | 地域社会 | 日産らしさを活かして社会課題を解決するとともに、次世代の子どもたちの可能性を広げる | コミュニティの発展 |    |
| | Power of employees | 従業員一人ひとりが自信を持ち、支えられ、自分らしさを発揮できるような動き甲斐のある職場環境を築くことで、従業員の能力が最大限に発揮できることを目指す | | |
| | 従業員の権利 | 人権尊重を通じた「人を中心とする企業文化」の実現 | 人権 |     |
| | ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン | 一人ひとりの個性を尊重し、インクルーシブでワクワクする日産の実現 | DEI (多様性、公平性、包括性) |    |
| | 従業員の能力開発 | 高いスキルとモチベーションを持った従業員の育成 | 人財育成 |     |
| | 労働安全衛生 | 従業員が安全・安心・健康に働くことができ、活気ある職場の実現 | ウェルネス & 労働安全衛生 |   |

*1 製品品質、セールス&サービス品質において各市場にてトップ3になる

サステナブル・ファイナンス・フレームワーク

日産はコーポレートパーパス「人々の生活を豊かに。イノベーションをドライブし続ける」の実現に向け、サステナビリティを事業の中核として位置づけ、グローバルな事業活動を通じて企業として成長し、社会が直面する諸課題の解決に貢献することを目指しています。

その取り組みの一環として、日産はサステナビリティの推進をより一層強化するために必要な資金を調達可能にするサステナブル・ファイナンス・フレームワーク*1を設定しました。本フレームワークは、グリーンボンド原則(GBP)2021、ソーシャルボンド原則(SBP)2023、およびサステナビリティボンド・ガイドライン(SBG)2021、ならびにグリーンローン原則2021、およびソーシャルローン原則2023に適合しており、その適合性については、独立した外部機関であるMoody's Ratingsより、セカンドパーティ・オピニオン*2を取得しています。

初めての資金調達となるシンジケーション方式でのグリーンローン契約は2022年11月に締結*3されました。また、2番目の資金調達となる2023年1月および2月に発行した、個人投資家向け社債(愛称：サクラ[SAKURA]債)と機関投資家向け社債は、日産のフレームワークに定義された適格なグリーンプロジェクトおよびサステナビリティプロジェクトに

全額充当しました。*4 本フレームワークを通じて調達した資金は、バッテリーを含む電動車両の開発や生産、EVエコシステム・スマートシティの実現に向けた技術開発やインフラ整備、より安全で持続可能なモビリティの開発など、幅広い取り組みに充当されています。今後も日産は、サステナビリティの推進を通じて、ステークホルダーの皆さまに優れた価値を提供し、持続可能な社会の発展に貢献していきます。なお、資金調達実績の詳細はサステナビリティボンドレポートを参照ください。*5

日産フィナンシャルサービスによる グリーンボンド発行

日産フィナンシャルサービスは、2024年3月に国内機関投資家向けに100億円のグリーンボンドを発行し、資金調達を完了しました。このグリーンボンドは、サステナブル・ファイナンス・フレームワーク策定後、日産グループ販売金融関連会社として初めての社債発行による資金調達であり、ゼロ・エミッション車を対象とする販売金融債権に資金を活用することで、販売金融事業を通じた日産グループの電動車両普及を支援します。

サステナビリティ推進のガバナンス

「人々の生活を豊かに。イノベーションをドライブし続ける」というコーポレートパーパスのもと、日産はサステナビリティを中核に据えた事業活動を行っています。2021年度から経営層の長期インセンティブ報酬において、サステナビリティに関する評価指標を新たに追加しました。短期的な業績目標達成のみでなく、当社の中長期的な企業価値および社会価値を向上させ、サステナブルな企業となるための取り組みの成果を報酬に反映させることで、経営層のサステナビリティへのコミットメントを明確にしています。

サステナビリティ戦略の目標設定や具体的な活動の進捗や課題については、チーフ サステナビリティ オフィサー(CSO: Chief Sustainability Officer)が議長を務めるグローバル・サステナビリティ・ステアリング・コミッティ(GSSC: Global Sustainability Steering Committee)で議論しています。重要な議論はエグゼクティブ・コミッティ(EC: Executive Committee)へ提案・報告されるとともに、その内容は取締役会に報告されます。GSSCは年2回開催し、各領域で活動を担う部署の責任者が参加します。各活動は担当部署が責任を持って推進し、その進捗はコミッティで報告されます。2023年度は2回開催しました。

なお、環境課題についてはCSOと取締役 代表執行役社長兼最高経営責任者が共同議長を務めるグローバル環境委

*1 日産自動車・販売金融関連会社 サステナブル・ファイナンス・フレームワーク原本(英語) https://www.nissan-global.com/JP/IR/STOCK/SUSTAINABLE_FINANCE/ASSETS/PDF/Nissan-and-Nissan-Sales-Finance-affiliates-Sustainable-Finance-Framework_en.pdf

参考和訳 https://www.nissan-global.com/JP/IR/STOCK/SUSTAINABLE_FINANCE/ASSETS/PDF/Nissan-and-Nissan-Sales-Finance-affiliates-Sustainable-Finance-Framework_jp.pdf

*2 セカンドパーティ・オピニオン原本(英語) https://www.nissan-global.com/JP/IR/STOCK/SUSTAINABLE_FINANCE/ASSETS/PDF/Second_Party_Opinion_en.pdf

参考和訳 https://www.nissan-global.com/JP/IR/STOCK/SUSTAINABLE_FINANCE/ASSETS/PDF/Second_Party_Opinion_jp.pdf

*3 詳細はこちらをご参照ください。 <https://global.nissannews.com/ja-JP/releases/release-48b4dcee3ca553fae7e18a40fe024c80-221130-01-j>

*4 詳細はこちらをご参照ください。 <https://global.nissannews.com/ja-JP/releases/release-852a2a2cb9af6879ff7b8333991e25d8-230120-02-j>

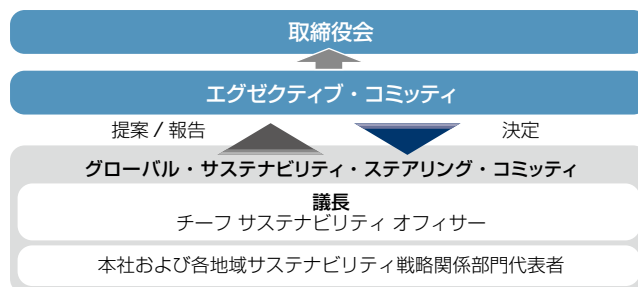
*5 日産自動車株式会社サステナビリティボンドレポート原本(英語) https://www.nissan-global.com/JP/IR/STOCK/SUSTAINABLE_FINANCE/ASSETS/PDF/Nissan-SBR-Mar2024_en.pdf

参考和訳 https://www.nissan-global.com/JP/IR/STOCK/SUSTAINABLE_FINANCE/ASSETS/PDF/Nissan-SBR-Mar2024_jp.pdf

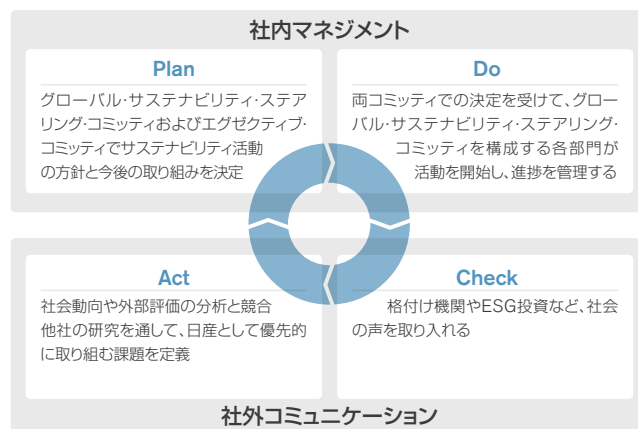
員会(G-EMC: Global Environmental Management Committee)*1において、バリューチェーン全体をカバーする関係役員が出席し、全社的な方針や取締役会への報告内容の決議などを行います。

各領域でPDCA(Plan-Do-Check-Act)サイクルを回すことで、サステナビリティパフォーマンスのさらなる向上を追求しています。

サステナビリティ戦略に関する意思決定プロセス



PDCAサイクル



経営層の役割と評価

2021年度より、長期インセンティブ報酬のひとつである業績連動型インセンティブ(金銭報酬)において、当社が中長期的な企業価値および社会価値を向上させ、サステナブルな企業となるための戦略のうち、特に事業への影響が大きく、ステークホルダーの関心も高い下記の二つの観点について、関連する評価指標を追加しました。*2*3

- 環境課題への対応：カーボンニュートラルに関わる取り組みを評価する外部指標
- 社会課題への対応：人権尊重に関わる取り組みを評価する外部指標

(業績連動型インセンティブ(金銭報酬)の評価指標のうち10%を当該指標に配分しています)

「国連グローバル・コンパクト」に署名

日産は国際的なガイドラインや協定に積極的に参画しており、国際的なポリシーや基準を尊重して事業活動を行っています。

日産は、国連が提唱する「人権・労働・環境・腐敗防止」についての普遍的原則である「国連グローバル・コンパクト」に、2004年から参加しています。

日産では、国連グローバル・コンパクトの10原則に基づくさまざまな活動を一層強化するために、サステナビリティマネジメントを進めています。*4



*1 グローバル環境委員会の詳細はこちらをご参照ください。 >>>P021

*2 報酬制度の評価指標に関する詳細は2023年度有価証券報告書(P73)をご参照ください。 <https://www.nissan-global.com/JP/IR/LIBRARY/FR/2023/ASSETS/PDF/ir2023.pdf#page=76>

*3 報酬委員会に関する詳細はこちらをご参照ください。 >>>P126

*4 国連グローバル・コンパクトに関する詳細はこちらをご参照ください。 <https://www.ungcn.org/>

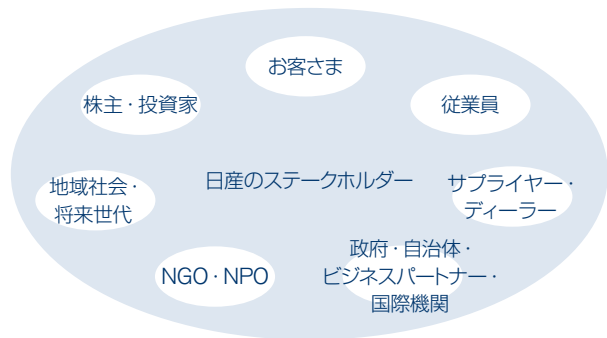
ステークホルダーエンゲージメント

ステークホルダーとの対話

日産では、日産の事業が存続するうえでかかわりのある個人または団体をステークホルダーと位置づけています。

日産は、企業活動と社会的要請のベクトルを一致させた経営を目指しており、そのためにステークホルダーの声に耳を傾け、信頼関係を構築しながら、社会の声を企業活動に反映させることが重要だと考えています。ステークホルダーとの対話を図る多様な機会を設けることで、オポチュニティとリスクの芽を見いだすことが可能になります。こうした対話を本社はもちろん、事業所や海外拠点においても実施し、確実に社内にてフィードバックする体制を構築しています。

日産を取り巻くステークホルダーとの対話の機会



| ステークホルダー | ステークホルダーとの対話の機会 | ステークホルダーの関心事、主なテーマ | 2023年度の主な取り組み |
|-----------------------|--|--|--|
| お客さま | 問い合わせ窓口、ディーラー窓口、ウェブサイト、ショールーム、イベント、お客さまアンケート、TV・雑誌・SNSなどのメディア、オーナーズミーティング、アフターサービス、メール配信サービス | ・製品やサービスの品質 ・お客さまへのサポート | ・お客さま相談室対応(約20万件・日本) (P075) ・Quick VOC (P079) ・Earth hour2024へSNSを通じて参加呼びかけ |
| 従業員 | 問い合わせ窓口(社内通報制度)、イントラネット、社内イベント、面談、各種アンケート(調査) | ・会社の業績や課題 ・社内ダイバーシティ ・職場環境 ・キャリア、教育 | ・社長講話 ・ECメンバーと部長層によるミーティング(MIE) ・サステナビリティセミナー ・DEI Fireside Chat (P099) ・業績評価面談 ・グローバル従業員サーベイ (P092) |
| サブライヤー・ディーラー | 定期的な会議、問い合わせ窓口、説明会、イベント、各種ガイドライン、ウェブサイト | ・公正な取引 ・日産のサステナビリティ方針や中期経営計画、購買方針 | ・サブライヤー環境活動説明会(日本) (P059) ・生産情報連絡会(月次) (P086) ・サブライヤー・ミーティング(購買方針説明会を含む) (P086) ・Nissan Global Supplier Awards (P086) ・人権ホットラインの運用開始(日本) (P084) ・日産グリーンショップ認定(日本) (P022) |
| 株主・投資家 | IR問い合わせ窓口、株主総会、決算説明会、IRイベント、取材対応、ウェブサイト、メール配信サービス | ・日産の事業戦略、業績、サステナビリティの取り組みなどを含む企業価値向上 | ・株主、投資家とのエンゲージメント (P013) ・投資機関などとの個別エンゲージメント |
| 政府・自治体・ビジネスパートナー・国際機関 | 問い合わせ窓口、共同研究、業界団体の取り組み、各種協議会、意見交換会、イベント | ・法令遵守 ・実証実験など公共施策への協力 ・共同プログラムの推進 | ・日本電動化アクション「ブルー・スイッチ」活動 (P091) ・福島浜通りでのまちづくり貢献 (P091) ・「ニッサンエナジーシェア」を広島大学に導入 (P041)*1 ・交通安全未来創造ラボ (P073) ・UNDP「ビジネスと人権」プロジェクトの参加 (P069) ・IOMとパイロットプロジェクトを実施 (P084) ・GXリーグなど環境に関する政府、自治体との連携 (P060) |
| NGO・NPO | 問い合わせ窓口、意見交換会、プログラム運営、イベント | ・社会課題の解決に向けた協働や支援 | ・アムネスティ・インターナショナル日本と人権の取り組みに関する対話の実施 (P070) ・NPO・NGO6団体に会員として参加、意見交換実施 ・スマイルサポート基金(7団体支援) |
| 地域社会・将来世代 | 各事業所問い合わせ窓口、地域でのイベント、工場見学、社会貢献活動、協議会、交通安全啓発活動、財団を通じた助成、ウェブサイト | ・地域社会への貢献 ・企業理念 ・日産のサステナビリティの取り組み | ・おもいやりライト運動(点灯呼びかけアクション) (P072) ・従業員による出張授業の実施 (P090) ・リカジョ(理科教育助成)育成賞の授与(財団) |

*1 詳細はプレスリリースをご参照ください。 <https://global.nissannews.com/ja-JP/releases/240202-02-j>

* 政治献金を行う場合は法令を遵守し、「グローバル行動規範」のガイドラインに基づいて、寄附を行っています。(2023年度寄付額：一般財団法人国民政治協会、3,700万円)

株主・投資家の皆さまとの対話の方針

日産ではチーフ ファイナンシャル オフィサー(CFO: Chief Financial Officer)を中心に、長期的視野に立つ経営戦略や、競争力を強化するイノベーションの導入、最新の市場動向などの会社情報の適時・適切な開示と継続的なコミュニケーションを通じて、株主・投資家の皆さまと建設的な対話を行い、信頼関係の構築に努めています。

対話を通じて得られた株主・投資家の皆さまの質問や意見は、担当役員を介して取締役会および経営層にフィードバックされ、経営の参考にしています。また、決算発表準備期間中における情報漏えいやインサイダー取引を防止するため、四半期ごとの決算期末日翌日から決算発表日までの間は決算情報に関する対話を一切行いません。

株主・投資家の皆さまとのコミュニケーション

日産は投資家向けのウェブサイトを運営し、随時最新情報を開示するとともに、事業説明会では毎年、投資家・アナリストの関心が高いテーマを選び、各部門・地域のマネジメント層が積極的に情報を提供しています。

また株主総会をはじめとするさまざまな交流を通じて、株主の皆さまの意見に十分耳を傾けるとともに、疑問に対しても適切な説明をすることで、信頼に応えていきたいと考えています。^{*1} 第124回定時株主総会は、2023年6月27日に日産グローバル本社で開催し、インターネットによるライブ配信も実施しました。会場では492名の株主の皆さまがご出

席、オンラインでは1,614名の株主の皆さまがご参加されました。2024年3月には株主・投資家を含めたステークホルダーの皆さまを対象とした経営計画「The Arc」の説明会を実施し、別途投資家・アナリストを招待したQ&Aセッションも実施しました。またその他、証券会社主催の機関投資家向けカンファレンスに多数参加しました。日産への理解をさらに深めていただくため、今後もニーズに合わせた適切な情報開示を実施していきます。

社外からの評価

日産のサステナビリティに向けた取り組みは外部評価機関から高い評価を受けています。

・ CDP

環境分野の国際的な非営利団体であるCDPの「ウォーターセキュリティ」部門において、最高評価である「Aリスト」企業に5年連続で認定されました。また、「気候変動」部門においては「A-」を獲得し、2013年度以降11年連続での「A」または「A-」認定の取得となりました。これにより、2部門においてリーダーシップの評価を受けました。^{*2}



・ EcoVadis

サステナビリティに関する国際的な評価機関であるEcoVadis社による2023年の調査において、スコア70点(評価対象企業約10万社の上位5%程)を獲得しました。^{*3}

また世界的にその信頼性が認められた以下の代表的なインデックスに組み入れられています。

・ FTSE

FTSE4Good Index Seriesに引き続き選定、FTSE Blossom Japan Indexにおいても9年連続で構成銘柄に選定され、FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexへは、同indexが新たに設定された2022年より組み入れ企業として選定されています。^{*4*5}



FTSE4Good

FTSE Blossom
Japan IndexFTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index

^{*1} IR情報に関する詳細はこちらをご参照ください。 <https://www.nissan-global.com/JP/IR/>

^{*2} CDP「ウォーターセキュリティ」部門「Aリスト」企業に認定。 <https://global.nissannews.com/ja-JP/releases/240215-00-j>

^{*3} EcoVadisに関する詳細はこちらをご参照ください。 <https://ecovadis.com/ja/>

^{*4} FTSE4Good Index Seriesに関する詳細はこちらをご参照ください。 <https://www.ftserussell.com/ja/products/indices/ftse4good>

^{*5} FTSE Blossom Japan IndexおよびFTSE Blossom Japan Sector Relative Indexに関する詳細はこちらをご参照ください。 <https://www.ftserussell.com/ja/products/indices/blossom-japan>